

保育園での異文化体験エピソード



その24 母国に誇りがもてるように



5 歳児クラスのみえちゃんは、両親が母国の中国語で話をしていると、大声を出して拒否の行動をします。両親は、「私たちの母国に対する誇りをもってほしいのに…」と、深く悩んでいました。

そこで、両親、日本語インストラクターと一緒に、園の子どもたちに中国の文化を伝え、美慧ちゃんも両親の母国を誇りに思えるような機会をつくりたいと話し合いました。美慧ちゃんは、私たちが楽しく話している様子を聞いていました。その結果、お母さんに“餃子づくり”を教えてもらうことにしました。

数日後、保育士から「美慧ちゃんに中国語を教えてもらった」と報告がありました。私も一緒に給食を食べているとき、美慧ちゃんは「イー、リャン、サン、スー…わかる？」と、中国語で10までの数を教えてくれました。大人が悩むまでもなく、“餃子づくり”を実行する前に、美慧ちゃんは既に“両親の母国”を受け入れていたのです。

その後、幼児クラスの子どもたちは、美慧ちゃんのお母さんと一緒に“餃子づくり”を楽しみました。美慧ちゃんは、みんなにつくり方を教えているお母さんの姿を、本当に誇らしげに見ていました。

(川副孝夫／千葉県市川市・風の谷保育園園長)

「地球家族ネットワーク」へのお誘いとエピソードのお願い

保育は、世界中の人と仲よく生活できること（平和）を伝える役割があります。

そこで、国際交流や外国籍の子どもたちの保育について情報交換をしたい方は、「地球家族ネットワーク」に参加してみませんか？！

また、外国籍の子どもを受け入れて、心に残るエピソードがありましたら、ぜひお寄せください。

全私保連 保育国際交流運営委員会

TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879

E-mail : ans@zenshihoren.or.jp